

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.1.22)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	九州管区警察学校本館	階数	地上3F
建設地	福岡県福岡市博多区板付	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、第一種住居地域	平均居住人員	400 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年8月 予定	評価の実施日	2015年2月1日
敷地面積	79,181 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社昭和設計 大澤
建築面積	2,329 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	6,152 m <sup>2</sup>	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.8</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>0 46 92 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

**2-4 中項目の評価(バーチャート)**

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
<p>Q1のスコア = 3.2</p>	<p>Q2のスコア = 3.3</p>	<p>Q3のスコア = 2.8</p>

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>LR1のスコア = 4.4</p>	<p>LR2のスコア = 3.7</p>	<p>LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>夏季は深い庇と垂直のリブ柱により直射日光を遮蔽し、冬季は複層ガラスの採用によって空調負荷を抑制する。また、光庭と端部の窓設置により、昼間は照明を用いなくても明るい廊下空間を実現するなど、エネルギーを用いずに快適な執務環境を整える。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>特になし。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>開口部の遮音等級をT-2として航空機騒音を遮断し、集中できる学習環境を整える。開口面積を抑えて騒音・熱負荷を抑えながら、室内に反射光を導くライトシェルフの設置や、直射日光を遮る</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>災害対策を行う施設として、構造体の耐震安全性は重要度係数を1.25とする。階高は十分に確保して梁貫通をできるだけ無くし、将来的な空調ダクトのやり替えなども実施しやすい計画とす</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>既存の緑地をできるだけ残すことで、敷地内温暖環境に配慮する。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>夏季は深い庇と垂直のリブ柱により直射日光を遮蔽し、冬季は複層ガラスの採用によって空調負荷を抑制する。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>雨水利用を行い、水資源を大切にす。高炉セメントや、グリーン調達品を積極的に採用する。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>敷地外に光害を生じさせるような、ライトアップなどは実施しない。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される